

農薬と健康

富山市東農協婦人部長 酒井 ミヨノ

農薬、除草剤の使い始めの昭和40年に、私はホリドール中毒になり、1ヵ月余りの入院を致しました。稲株の発育が思うようにいかず、何か病気ではと田の隅に立って思案していたところ、たまたまホリドール散布の係の方から「普及所の方に見てもらったら」と言われ普及員さんをともない耕作田全部をホリドール散布に廻りました。散布後数時間後に所用のためバスに乗っていると、今まで一度も乗物に酔わない私がとても苦しくなり、医師に診せると安静をと、言われながらも、その中に流動物を摂りながら20日間農作業をつづけている中に寒さと痛みがおそい、近くの医師に診せると「すぐ滑川の農協病院へ行きなさい」といわれ、急いで病院で診断をうけました。農薬の中毒で肝臓がやられており、早速入院ということになり、一ヵ月余りの治療をうけてやっと退院しました。

あとで知ったことですが、ホリドールは散布の後にガスが多く出て危険ということを知り、農薬の散布に当たったことを深く反省させられました。イナゴや、赤とんぼ等が生存出来ない農薬を散布して米の収量を上げるのに、生産に励んできた営農

のあり方に深い疑問をもつようになり、それから農薬の特性を学び、防除衣の着用を厳重にして身の守りにつとめています。

アキレス腱障害による入院、その他相次いで病気にならなくても健康がすぐれず、ブラブラと過ごす中に、46年8月25日にものすごい痛みにおそわれ病院に行くと肝臓が悪く40日間余りの入院をしました。ちょうど農薬散布時期なので手術後も3年間は体に気をつけないと、また肝臓が悪くなるので要注意と言われ退院を致しました。

3年に1回の入院を3回も続け、いつも農繁期ばかりなので、家族の者に迷惑をかけ、健康である事が一番大切であり、また幸福である事が身にしみました。49年より農協婦人部の世話をさせていただき、会合に出てみて、貧血、糖尿病の調査を組織でさかんにやっておられる事を知り、もっと早くに婦人部を知っていればよかったと思いました。今では皆さんを誘ってミニドックの検診を受け、又自家菜園には緑黄色野菜作りを婦人部活動で広め、この手ににぎる主婦の役割を果たすため一生懸命つとめています。